

ノーベル賞 本庶氏

医学、生理学、京大特別教授

がん新薬開発に貢献

【ストックホルム共同】スウェーデンのカロリンスカ研究所は1日、2018年のノーベル医学・生理学賞を、体内で異物を攻撃する免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を発見した本庶佑（ほんじょ・たすく）京都大特別教授（76）に授与すると発表した。米テキサス州立大のジェームズ・アリソン教授との同時受賞。

本庶氏の発見は、さまざま臓器のがんに効果が認められた治療薬「オプジーボ」として実用化された。免疫の力を強め、がんと戦う「がん免疫療法」の時代を切り開いた日本発の成果が、最高の栄誉に輝いた。

日本人のノーベル賞受賞は2年ぶり、26人目。